

いしのまき 水辺の緑のプロムナード計画 概要

石 巻 市

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の概要 (H25年3月)

< 石巻市 >

計画策定の背景・目的

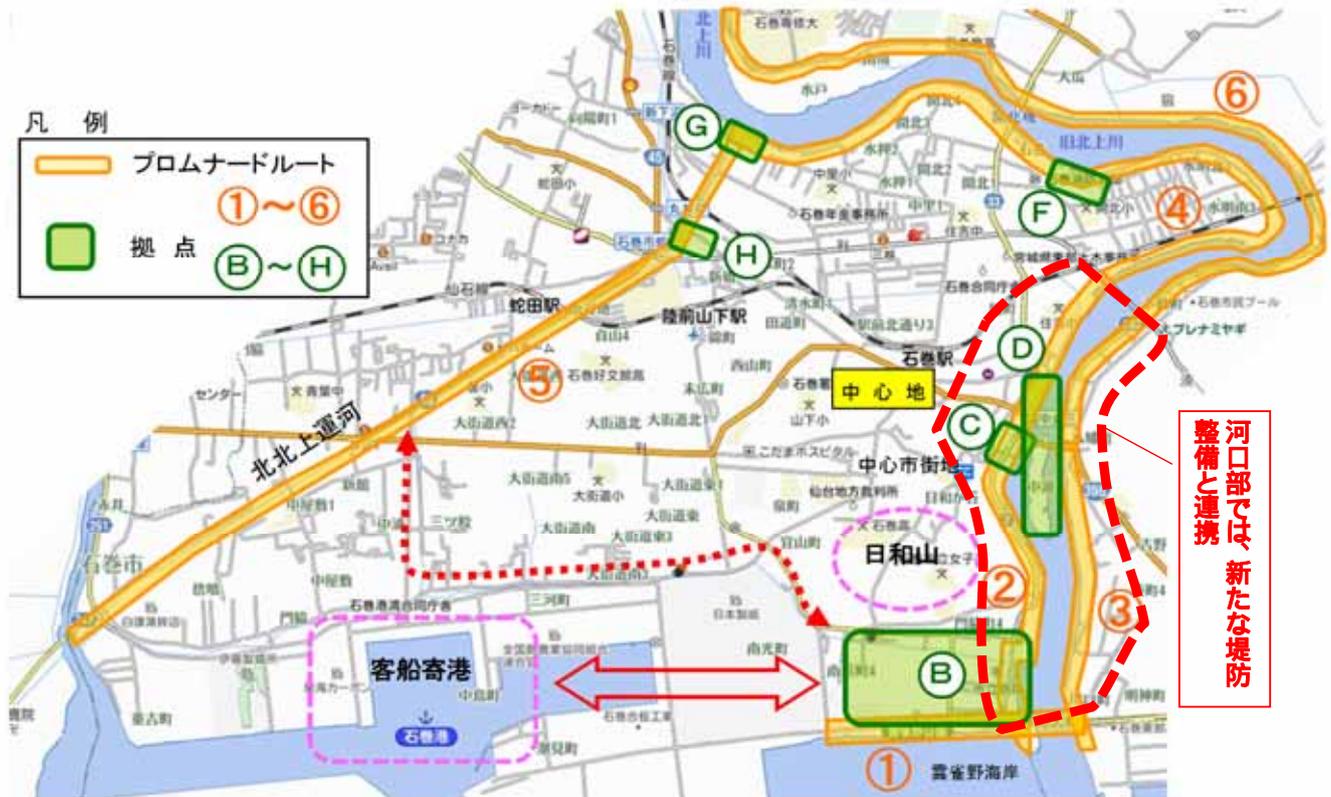
- ◆ 石巻市は、川湊として発展してきた街であり、大震災からの復興にあたって、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻す街づくりが不可欠。
- ◆ まちの中心部を囲むルートと拠点を設置、河川堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画。

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河(貞山運河)
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

これらを一体的に活用し、河川や水辺を活かしたまちづくりを目指す。

市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら、石巻湊の歴史・文化等を知る。
 将来を担う子供たちに旧北上川と石巻市の発展の関わりを学び知ってもらう。
 人々の憩いと健康の増進。
 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 全体図 (H25年3月)



H23年2月計画策定直後、東日本大震災が発生。
 上図は石巻市震災復興基本計画に基づく土地利用等を踏まえた、一部見直し(H25年3月)後の計画全体図。
 拠点 と は、計画見直しの中で、拠点 に機能を集約し、欠番となっている。

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 (抜粋)

- 河川堤防を活かしたまちづくりの整備イメージ -

ルート

いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

以下の内容はプロムナード計画の整備イメージ抜粋であり、
関連事業については、今後の検討により変更があり得ます。

ルートイメージ

- 安全管理のため転落防止柵を設置
- もし人が落ちた時に上がつてこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置
- 距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮
- 夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置(ライトアップ)
- 部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置
- ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置

護岸イメージ

一部には水辺に触れることができ、昔の石積護岸を思い出すような護岸を設置する

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

拠点

C 雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

拠点

D 川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

拠点イメージ

- 背後地の市街地再開発イメージ
- 緩やかなスロープにより拠点から水辺へのアクセス性を向上
- 建物と堤防をテラスで一体化し、開放感のあるオープンスペースを創出
- 様々なイベント開催などにより観光客を集める
- 広々とした階段に座って川や中瀬の風景を堪能
- 堤防天端と水際部が散策路となり、視点場を変えながら川の風景を楽しむ
- 水際部に変化をつけ、オープンカフェやイベント広場として活用する。一部階段を設置しアクセスを向上

上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更があり得ます。

堤防と背後地再開発の接続イメージ

例1 プロムナードによる空間の創出

例2 プロムナードによる空間の創出

拠点イメージ

- 住吉公園(雄島)周辺
昔を偲ばせる水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石(まきいし)」を再生する。
- 休憩・運動機能、親水機能
水辺に親しみながらゆっくり過ごすることができる場の創出
浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現
- 水面利用機能
中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース(ミニクルーズ)などが考えられる。
- 歴史・文化の伝承、歴史体験機能
昔の街並みや賑わいを感じさせ、その中で歴史や文化を学べる空間とする。

堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ルート

新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルートイメージ

- 夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置(ライトアップ)
- 安全管理のため転落防止柵を設置
- 距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮
- 連続植栽のイメージ
- 部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置
- ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置
- もし人が落ちた時に上がつてこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置

堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

連続植栽のイメージ

背後の土地を活用して桜堤や連続する植栽、並木道等により人々の集える空間と景観に配慮

連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

5 - 3 プロムナード拠点 祈念公園と水上交通拠点

拠点
B
拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」
及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等
「鎮魂と祈りと絆の杜 / 水上交通拠点」

拠点イメージ

- 祈念公園**
- 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
 - 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
 - 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
 - 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

水上交通、水面利用

- 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
- プレジャーボート等を収容するマリナー機能を確保する。
- 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。



離島への定期航路の発着所

拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約
堤防等はイメージであり今後の検討により変更が有り得ます。



広場とモニュメントのイメージ (北海道厚岸町 徳洋記念緑地公園)



レクリエーション広場でのイベント等



マリナーイメージ

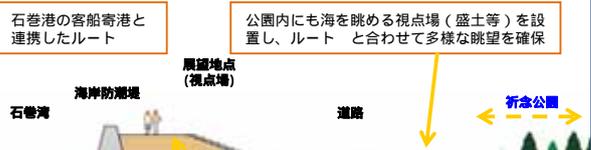
ルート 5 - 2 雲雀野海岸・日和大橋 プロムナードルート

ルート
B
ルートテーマ

海に思いを馳せる
「太平洋を眺める潮風のルート」

ルートイメージ

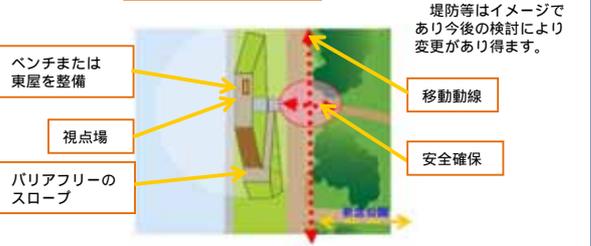
- 海岸防潮堤に沿って、海を眺める視点を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルートと祈念公園の往来もできる設定を考慮



石巻港の客船寄港と連携したルート

公園内にも海を眺める視座場(盛土等)を設置し、ルートと合わせて多様な眺望を確保

視座場設置のイメージ



ベンチまたは東屋を整備

視座場

バリアフリーのスロープ

堤防等はイメージであり今後の検討により変更が有り得ます。

移動動線

安全確保

7 - 4 大橋地区 プロムナード拠点

拠点
F
拠点テーマ

水辺のレジャーも楽しめる防災拠点
「旧北上川水辺広場」

拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時においては、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井開門までの散策路(堤防上)では木陰が無いため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。

河川防災拠点整備イメージ



大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川に関する情報発信の場
- 地域の方々のコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



洪水等の緊急時には

- 水防情報の受信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防待機所
- ヘリポートによる緊急輸送



ルート 7 - 2 旧北上川右岸上流(水明~大橋~運河交流館) プロムナードルート

ルート
B
ルートテーマ

旧北上川の風と風景を楽しむ
「川の風を楽しむルート」

ルートの方向性

川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済みであり、移動途中で休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。
- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。
- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。



サイクリングでの水辺散策

堤防上は安全な通学路

ウォーキングや散歩を楽しむ人も多い

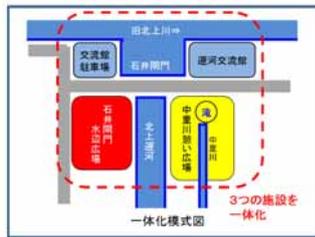
拠点 8-3 プロムナード拠点 運河交流館

G

拠点
テーマ

川を学び水とふれあう
「水辺の交流広場」

拠点イメージ



3つの施設をつなぐ横断歩道や案内看板、サイン等の整備を行うことで、3施設が一体的となるよう工夫。また施設の利用促進を図るための駐車場（一次利用）やテーブル・椅子を整備。



拠点 8-4 プロムナード拠点 水と緑と子供たちの広場

H

拠点
テーマ

運河と緑の憩いの空間
「水と緑と子供たちの広場」

拠点の方向性

拠点
方向性

- 運河と松や桜等の緑に囲まれながら、人々が憩う空間
- 既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利用が進んでいる（新たな整備は行わない）。
- プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討



散策路の沿道には桜が植樹され、公園のベンチで休みながら桜が眺められる



ランニングしている学生たち 公園にある運河整備事業の看板

ルート 8-2 北北上運河（釜開門～石井開門） プロムナードルート

ルート
テーマ

運河の水辺と緑を楽しむ
「運河ルート」

ルートの方向性

ルート
方向性

運河の水辺と緑を楽しみながら、ボート等の水面利用や散策、サイクリングができるルート既に散策路が整備済みであり、これを活用することを基本とする。運河沿いに並ぶ松並木が良い景観であるが、津波により松が枯れていることから、地域と一体となって従前の景観の再生を検討し、ライトアップ等の取り組みを推進する。



震災後も学生が運河を利用してカヌーの練習を行っている



震災後、運河沿いの松の多くが枯れている



運河沿いに散策路が整備され、運河を眺めながらの散歩や、サイクリング、運動などで活用が図られている



市民団体による北上運河の松並木へのライトアップ（石巻日日新聞提供）

ルート 7-3 旧北上川左岸上流 プロムナードルート

6

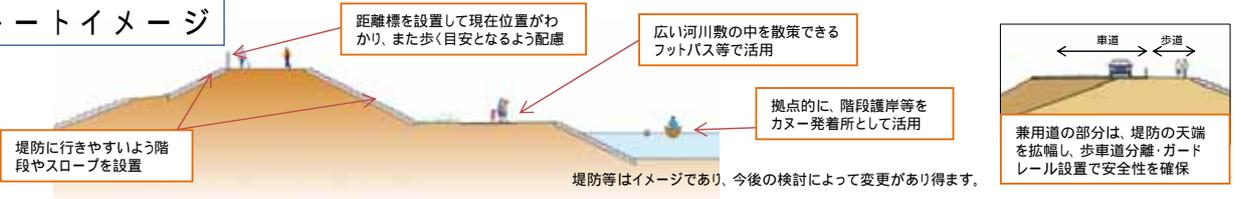
ルート
テーマ

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード
「スポーツと学びのルート」

ルート
方向性

対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散策できるルート（心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散策、サイクリングを楽しむ）石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進（サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫（距離標や案内板）一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫（釣りやボート等）

ルートイメージ



「いしのみき水辺の緑のプロムナード計画」では、プロムナードの利便性、快適性の向上、更には市民に愛される石巻のまちづくり、集いと賑わいを呼ぶための利活用策の一環としてサイン計画を立案する。

サイン計画の目的

目的地までの円滑な誘導

地元住民や観光客の人たちが、拠点等への目的地まで円滑に移動できるように誘導する。

石巻について学ぶ

地元住民や観光客の人たちに、サインを通じて石巻の歴史、文化、産業等について学んでもらい、市民に愛される石巻のまちづくりを目指す。

楽しさや賑わいを演出し、来訪者の増大と石巻の地域活性化を図る

利便性を向上させるだけでなく、サインのデザインにイラストやアニメを活用する等、楽しさや賑わいを演出し、来訪者の増大をめざし石巻の地域活性化を図る。

【サインの留意点】

- 誰もが見やすく、わかりやすいサインとする。
子どもからお年寄りまで誰も見やすく(視認性が高く)、分かりやすいサインとする。また、誘導や避難に用いるサインはユニバーサル観点から日本語、英語及び絵文字等による表示を基本とし、必要に応じて音声案内等を活用する。
- 周辺景観との調和、融合を図るとともに、石巻らしさを演出する。
周辺の町並みや自然環境等の景観との調和を図り、情報を的確に伝えるとともに、歴史や文化といった石巻らしさを演出する素材、デザインとする。
- サインの分類に応じて、サインのデザインを統一させる。
サインの分類上同じものは、統一したデザインとし、複数のサインが連携することで情報の伝達効果を高める。
- 市民のみんなで考える。
市民参加で「石巻のことをより分かりやすく解説する」サイン作成や設置を検討する。なお、将来に向けて、更新や充実を図っていくよう、継続していく。

サインの分類

サインは、案内、誘導、歴史や文化等の説明、利活用のサインと避難や津波啓発の防災サインを対象とする。

	設置の目的	サインの事例
利活用サイン	案内サイン ・全体案内(ルート・拠点の説明、トイレ、休憩施設等の説明) ・拠点内の主要施設を案内 ・現在地の表示	
	誘導サイン ・観光客をまちの中心部からプロムナードのルートや拠点まで誘導 ・注目スポット等へ誘導	
説明サイン	・歴史的な地域資源を解説する ・プロムナードのルートや拠点周辺の歴史、文化、産業等、更に史跡等の地域資源を解説する	
	・海や川の景観を楽しめる場所を示す ・河口からの現在の位置までの距離を示す ・お勤めの散策コースや目的地までの所要時間等を知らせる	
防災サイン	避難サイン ・津波避難場所や避難経路などを表示	
	津波啓発サイン ・津波の知識を学習し、危険性を表示 ・過去に襲った津波の高さを表示	

サイン計画について(主な配置案)

案内サイン:プロムナード全体を記した案内サインは、来訪者の交通の拠点となる石巻駅や、各拠点の要所に設置する。

誘導サイン:プロムナードやその周辺道路の分岐点となる箇所に設置する。

説明サイン:石巻の歴史や文化等を伝える各施設に対し説明サインを設置する。

ルート・拠点	番号	説明サインの例
拠点A	①	北上川河口と海難救助の歴史
	②	港の歴史
ルート②	③	北上川河口と海難救助の歴史
	④	門脇町の歴史
ルート③	⑤	一皇子宮
	⑥	慈恩院
拠点D	⑦	箱崎八幡神社
	⑧	北上川や中瀬での造船の歴史
拠点C	⑨	大嶋(住吉)神社、住吉公園
	⑩	船着場の歴史
ルート④	⑪	立町・羽黒町等の歴史
	⑫	住吉町、千石町の史跡
ルート⑤	⑬	昔の水遊風景
ルート⑥	⑭	石巻専修大学の柱

説明サインは、将来にわたって更新・充実を継続



【凡例】

- プロムナードルート
- 案内サイン
- 誘導サイン
- 説明サイン
- 拠点B~H

【プロムナード計画の利活用の推進に向けた提案】

サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いしのみき水辺の緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を継続的に行うことを想定する。市民参加型のプロジェクトとする。

サインプロジェクト（仮称）の連携・協働イメージ



サインプロジェクトの活動方針（案）

サインプロジェクトは、以下の3つの方針で活動する。

方針 石巻の歴史や文化・産業を、観光客等の外来者に分かりやすく説明するとともに、市民にとっても、学習しながら古き良き石巻の姿に思いを馳せることのできるサインの検討を行う。

方針 活動を通じて、石巻の歴史・文化の伝承の担い手を育成する。

方針 参加者が楽しみながら活動し、将来にわたって継続する。

活動内容（案）

ワークショップ等によるサインの検討

・ワークショップ等を開催し、石巻の歴史、文化、産業等の解説や、個々の施設の説明等を市民との協働により検討する。



ワークショップの事例写真

市民によるサイン検討と設置

・サインの配設置や製作、設置など、実施に向けた検討を行う。
・例えば、製作から設置までを市民自らが実施するなど考えられる。



説明看板のイメージ
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

プロムナードマップの作成

・市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所、回遊する散策路などを分かりやすく記したマップを作成する。



フットパスのイメージ（最上川朝日地区）

プロジェクトのフォローアップ

・分かりやすさや見やすさ等について、来訪者のヒアリングやアンケート等を実施しながら検証し、継続的にサインの内容更新や設置箇所の追加、充実を図っていく。



イベント風景の事例写真（遠賀川）

プロムナードの利活用の促進に向けた取り組み（案）

～体制・基盤づくり～

産、学、官、民が連携したプロムナード利活用促進体制の確立

プロムナード利活用促進協議会（仮称）を設立するなど、産、学、官、民が連携できる体制を確立し、利活用促進に向けた様々な取り組みを実施していく。



協議会風景イメージ
第1回プロムナード計画懇話会（平成22年5月開催）

サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いしのみき水辺の緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を将来にわたって継続的に、市民参加型のプロジェクトとする。



ワークショップのイメージ

イベント施設やオープンカフェの設置

平成23年度の河川敷地の占用に関する規制緩和を活用し、民間事業者による河川敷地でのイベント施設やオープンカフェを設置し、水辺空間の賑わいを創出する。



広島京橋川の事例写真

～歴史・文化の学習と観光振興～

プロムナードツアーの企画

プロムナードの各拠点やルートの特性を活かしたツアーをNPOやボランティア、大学などの連携により企画、ツアーの実施を重ねることにより、より市民や観光客に満足いただけるものにレベルを高めていく。また水辺や川と親しむ各種イベントを開催し、来訪者の増大を図る。



イベント事例写真（海軍公園でのイベント風景）



観光ツアーイメージ
（北上川石巻公園開講による歴史探訪）

石巻の歴史・文化を学ぶ舟運の復活

昔の石巻港の歴史・文化を感じながら、来訪者の回遊、移動の足となる舟運を復活させる。



水上交通のイメージ

観光ガイド等の育成

石巻の歴史文化に詳しい石巻マスターを発掘し、ボランティアガイド等の育成を長期的な事業として行う。



第8回北上川石巻公園開講にて、船魂神社を探訪

観光パンフレット、マップの発行

来訪者へのPRとプロムナード利活用の利便性向上を図るため、プロムナードを紹介した観光パンフレット、マップを発行する。



フットパスのイメージ（最上川 朝日地区）

～利便性の向上・教育～

ITの活用による情報提供

インターネットホームページを立ち上げ、各種情報発信を行うとともに、モバイル向けの情報提供を行う。



さらに、各施設に携帯電話で読み込めるQRコードを配置し、携帯電話からアクセスしたり、スマートフォン用のマップに各種情報を盛り込み、史跡や各種施設の詳しい紹介やガイドを行うことで、プロムナード散策の楽しみの向上や施設利用の推進を図る。

バリアフリー・レンタサイクル導入による利便性の向上

プロムナード計画に基づき整備するところにおいて、誰でも使いやすいバリアフリー化を図る。また、レンタサイクルを導入し、プロムナードのサイクリング利用を推進する。



水辺のバリアフリーのイメージ



サイクリングでの水辺散策

河川環境及び防災学習の推進

小中学校と行政、市民が連携して、石巻の特性を活かした教材による環境教育や防災教育を推進する。



水生生物調査風景

『いしのまき水辺の緑のプロムナード計画』に関わるこれまでの意見等

『H25.3 計画見直し時』のパブコメ結果(抜粋)

- プロムナードルートに設置する階段は高齢者に配慮して段差を小さくして欲しい。
- 災害時に旧北上川や北北上運河を交通手段として利用できるよう、船着場の整備をして欲しい。
- 震災前に不法係留されていた船やヨットの数を考えれば、川口町近辺にも係留施設を整備して欲しい。
- 水没しかかっている導流堤のかさ上げを行い、ある程度の安全性を確保し、釣り客を呼び込めるようにして欲しい。また、川沿いのどの場所でも釣りができるようにフェンスから水辺までの距離をある程度とって欲しい(できれば4~5m程)。もしくは、通常の道路にあるガードレールくらいの低さに抑えて欲しい。
- 市街地側とプロムナード側の連続性について、市街地側から川岸を感じられるようにして欲しい。
- 市街地側からも空や川岸の自然を感じられるようにして欲しい。そのために、堤防天端ラインが市街地からもなるべく長く見えた方が良い。
- 中瀬の下流側の先端を以前のような岸壁にして欲しい。
- 河川敷や堤防上の道路は将来、川開き祭りの花火大会が元の場所で開催されるようになることを考えて、今よりも広めに作って欲しい。もしくは、花火大会が開催されることを前提として河川敷や道路を作って欲しい。
- (旧北上川左岸上流) 現在、葦などが生えているが、これを伐採せず、残して欲しい。このルートに限らず、他の場所でも葦などの水生植物を植え、水質浄化や小魚などが住みやすい環境を整えて欲しい。
- カヌー等に利用されているとあるが、川幅や水質の問題はあるかもしれないが、ウエイクボードやトライアスロン等の大会も出来るように整備して欲しい。
- 場所によっては高台まで距離があることから、津波避難施設の確保も必要とあるが、高齢者にとっては、堤防上や河川敷にいた場合、いったん堤防から降り、平地を進んで津波避難施設で上の階へ登るということをしなくてはならない為、かなりの負担になると思われる。
実現は難しいと思うが一つの案として、仙台駅前のペDESTリアンデッキのように、堤防内側に作った津波避難施設の上の階、あるいは屋上と堤防上の道路をつなぐことはできないか。

パブリックコメント実施方法 : 意見募集窓口の設置、石巻市HPへの掲載、
投函メールによる意見募集
実施期間 : H24.12.21~H25.1.20
募集結果 : 2件(22意見)

『いしのまき水辺の緑のプロムナード計画』に関わるこれまでの意見等

『H23.2 計画見直し前』の沿川町内会からの意見(抜粋)

<北北上運岸について>

- 快適に散策できる環境にしてほしい。
- 散策路の除草は重要。
- 石井閘門の説明板は大人向けであり、子供向け用のものが欲しい。川の生物・植物を学べる場が欲しい。
- 運河沿いの植栽は松よりも桜の方が良い。松枯れした樹木の伐採と補植し景観と環境の観点から重要。
- 住民パワーを利用してプロムナード計画を推進すべき。
- 歩行者と自転車が接触しないよう配慮すべき。また、運河沿いの散策ではトイレが無い。

<旧北上川右岸上・下流、旧北上川左岸、雲雀野海岸>

- 新たに整備するプロムナードは、夜、水辺を歩く人も考えて照明を考えて欲しい。
- プロムナードから住宅地へ渡る際の安全対策は重要。
- 日和大橋もプロムナード計画に入れるべき。橋からの景観は素晴らしい。
- 湊地区の歴史的なポイントは、山際に多くあって水辺沿いから距離がある、プロムナードに設置するサインなどを工夫して欲しい。
- プロムナード整備と併せて内水対策は重要(門脇・湊地区)。
- 中瀬から見た湊側が汚いイメージ。プロムナードでは景観も検討すべき。
- 散策路は、子供たちが遊びながら学習できるような観点も必要。
- 内海橋をプロムナード計画に入れるべき。
- 雲雀野海岸の拠点には、子供連れでも安全に釣りが出来る場所を望む。
- 拠点にはトイレ、駐車場などを備えて欲しい。

意見聴取方法 : 沿川町内会 3 7 町内会 (9 1 名) から意見聴取
実施期間 : H22. 10. 25 ~ H22. 11. 5

【 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画概要図 】 プロムナード計画よりイメージ等抜粋

■ 拠点
--- ルート
--- 災害復旧範囲

拠点: B

拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

拠点方向性

以下の2つの機能が隣接した一大拠点とする。
 ■公園: 震災の記憶を伝える鎮魂・祈りの公園ができることから、鎮魂・祈り・震災アーカイブ・復興支援に対する感謝をテーマとした空間となる。
 ■水上交通・水面利用: 離島航路との結節点、船舶を係留するマリナー機能、客船寄港との連携等、水上交通や水面利用の拠点と位置づけ、船のある風景も残る空間となる。

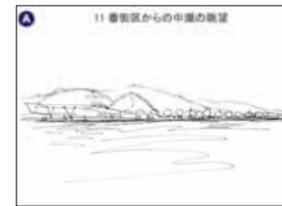
拠点: C
 拠点テーマ

雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する「食彩・感動いしのまき」

拠点方向性

●プロムナードの中核としての拠点であり、雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を味わうなど観光的な要素を含んだスポット(対岸の中瀬と連携することで拠点性を向上)
 ●中央街区は、堤防整備を活かした再開発を検討していることから、プロムナードとしては人々が集える空間、回遊の中心とするための工夫・配慮を行う。

拠点イメージ



ルート

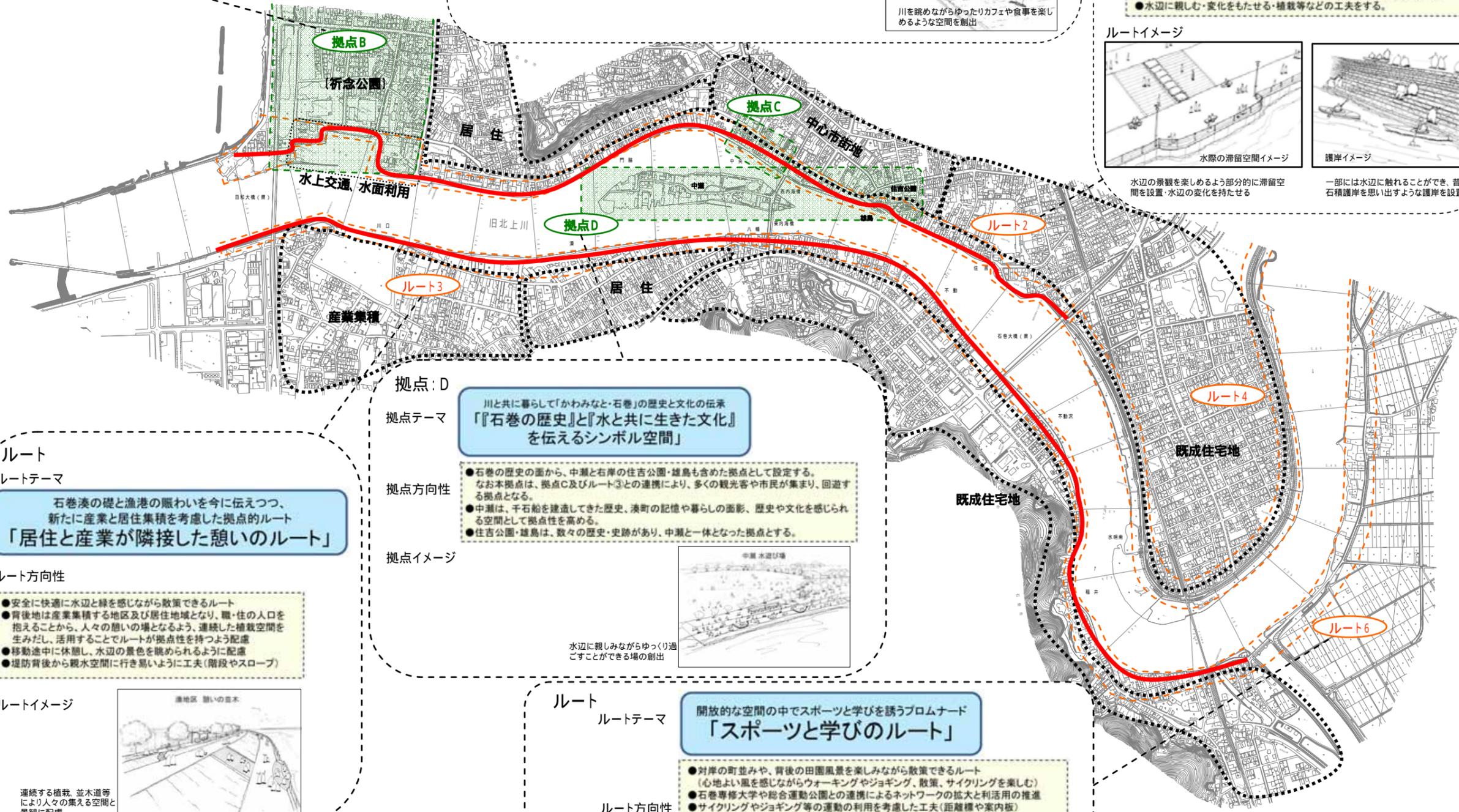
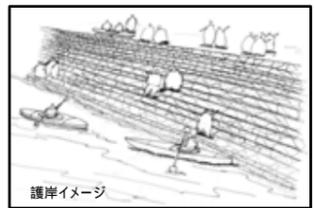
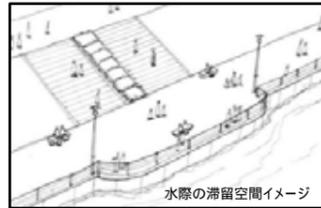
ルートテーマ

いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる「旧北上川と石巻湊ルート」

ルート方向性

●人々が集い、安全に快適に水辺と緑を感じながら散歩できるルート
 ●中心市街地からの観光回遊やプロムナードの各拠点間の回遊性を確保するとともに水辺に近づきやすいように配慮
 ●移動中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
 ●プロムナードから親水空間に行き易いように工夫する。(階段やスロープ)
 ●水辺に親しむ・変化をもたせる・植栽などの工夫をする。

ルートイメージ



ルート

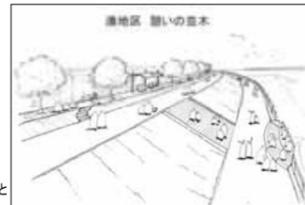
ルートテーマ

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルート方向性

●安全に快適に水辺と緑を感じながら散歩できるルート
 ●背後地は産業集積する地区及び居住地域となり、職・住の人口を抱えることから、人々の憩いの場となるよう、連続した植栽空間を生みだし、活用することでルートが拠点性を持つよう配慮
 ●移動中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
 ●堤防背後から親水空間に行き易いように工夫(階段やスロープ)

ルートイメージ



拠点: D

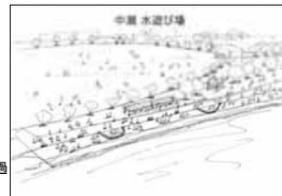
拠点テーマ

川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

拠点方向性

●石巻の歴史の面から、中瀬と右岸の住吉公園・雄島も含めた拠点として設定する。なお本拠点は、拠点C及びルート3との連携により、多くの観光客や市民が集まり、回遊する拠点となる。
 ●中瀬は、千石船を建造してきた歴史、湊町の記憶や暮らしの面影、歴史や文化を感じられる空間として拠点性を高める。
 ●住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があり、中瀬と一体となった拠点とする。

拠点イメージ



ルート

ルートテーマ

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード「スポーツと学びのルート」

ルート方向性

●対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散歩できるルート(心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散歩、サイクリングを楽しむ)
 ●石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
 ●サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫(距離標や案内板)
 ●一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫(釣りやボート等)

【 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画、堤防整備に関する地域の意見 】

 : 拠点
 : ルート

拠点:C

H25.3 計画見直し時
市街地側とプロムナード側の連続性について、市街地側から川岸を感じられるようにしたい。
市街地側からも空や川岸の自然を感じられるようにしたい。そのために、堤防天端ラインが市街地からもなるべく長く見えた方がよい。

まちなか創生協議会
石巻駅から萬画館に行くまでの回避の観点から考えると、堤防背後地の利用について他の地域にはない、石巻独特の整備がされる事を望む。

拠点:B

H23.2 計画見直し前
雲雀野海岸の拠点には、子供連れでも安全に釣り出来る場所を望む。

ルート

H23.2 計画見直し前
プロムナード整備と併せて内水対策は重要(門脇地区)、日和大橋もプロムナード計画に入れるべき、橋からの景観はすばらしい。

全3回 懇談会意見
住吉公園はいい場所、うまく活かすべき、もっと踏み込んでもらいたい。
巻石を残して欲しいという意見が活かされた。
内海橋の右岸上流側、住吉公園の下の方で、一部護岸の形を見てきた。ああったものが、両岸に連続していくイメージが良い。

まちなか創生協議会
一つ目は、水辺プラザとしての旧北上川河口部右岸の整備。これまで船着き場を中瀬や住吉神社の下流等によって利用してきた。その復活が絶対必要である。河川敷に車が入れるように整備してほしい。二つ目は堤防の法面の部分が無駄な空間となる。堤内地のその部分の有効活用できる整備を民間で行うのは難しいので、行政で整備してほしい。
住吉公園はどんと祭等が行われており、市のメイン行事として考えられている。公園が堤防用地に入っているが、今後行事を行えるようにする方向で協議中。

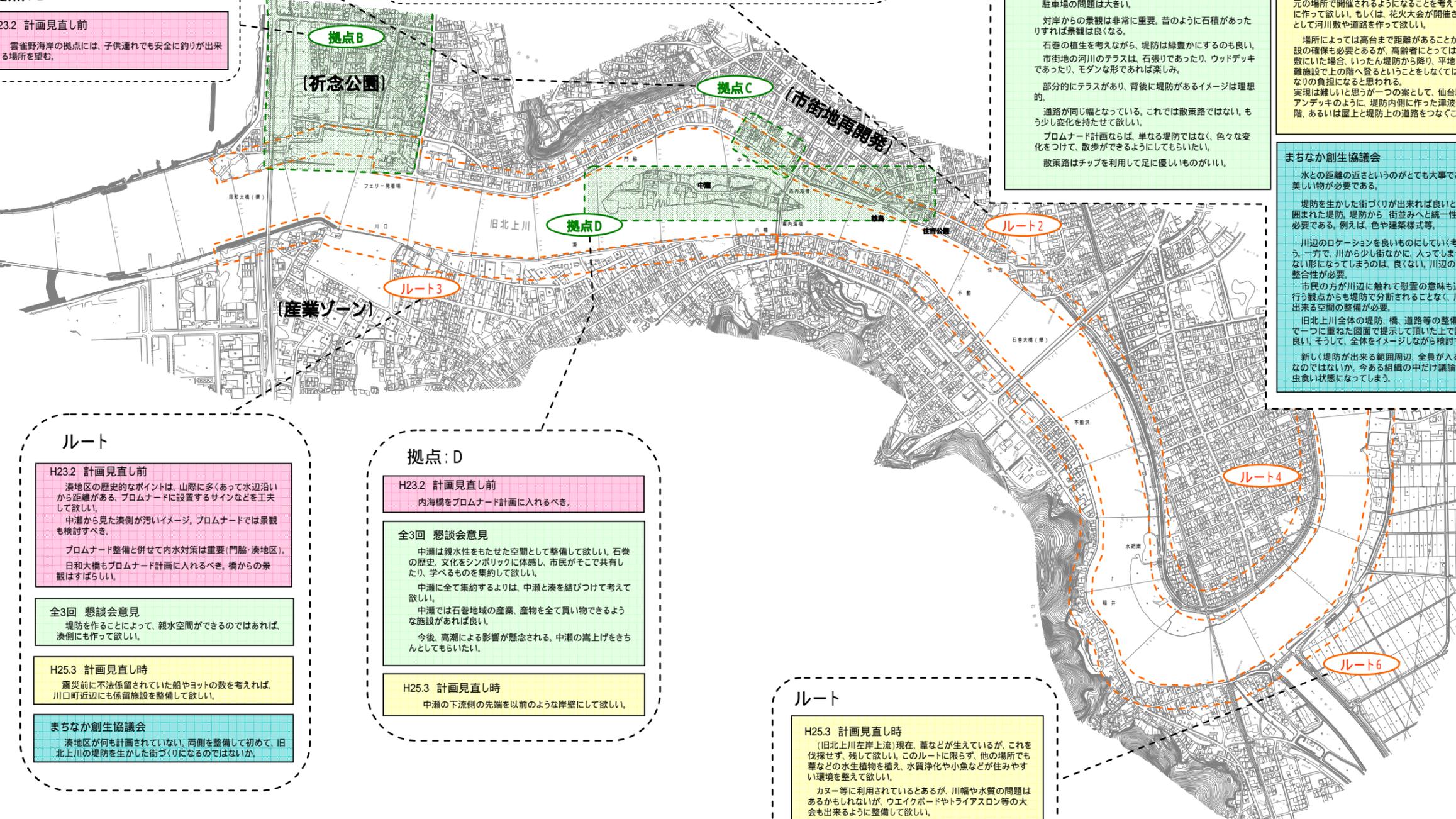
全区間共通

H23.2 計画見直し前
新たに整備するプロムナードは、夜、水辺を歩く人も考えて照明を考えて欲しい。
プロムナードから住宅地へ渡る際の安全対策は重要。
散策路は、子供たちが遊びながら学習できるような観点も必要。
拠点にはトイレ、駐車場などを備えて欲しい。

全3回 懇談会意見
北上川を市民が親しめる空間としてやっていくという姿勢でやっていく。
石巻の魅力、石巻らしさは、川が見える、海が見えるというロケーション。
長井のフットパスは、まち中と最上川が融合し、好評を得ている。石巻駅を中心として、プロムナードを結びルートを考える必要がある。
駐車場の問題は大きい。
対岸からの景観は非常に重要、昔のように石積があったりすれば景観は良くなる。
石巻の植生を考えながら、堤防は緑豊かにするのも良い。市街地の河川のテラスは、石張りであったり、ウッドデッキであったり、モダンな形であれば楽しみ。
部分的にテラスがあり、背後に堤防があるイメージは理想的。
通路が同じ幅となっている。これでは散策路ではない、もう少し変化を持たせて欲しい。
プロムナード計画ならば、単なる堤防ではなく、色々な変化をつけて、散歩ができるようにしてほしい。
散策路はチップを利用して足に優しいものがいい。

H25.3 計画見直し時
プロムナードルートに設置する階段は高齢者に配慮して段差を小さくして欲しい。
災害時に旧北上川や北上川運河を交通手段として利用できる。船着場の整備をして欲しい。
水没しかかっている海流堤のかさ上げを行い、ある程度の安全性を確保し、釣り客を呼び込めるようにしたい。また、川沿いのどの場所でも釣りができるようにフェンスから水辺までの距離をある程度とって欲しい(できれば4-5m程)。もしくは、通常の道路にあるガードレールくらいの低さに抑えて欲しい。
市街地側とプロムナード側の連続性について、市街地側から川岸を感じられるようにしたい。
市街地側からも空や川岸の自然を感じられるようにしたい。そのために、堤防天端ラインが市街地からもなるべく長く見えた方がよい。
河川敷や堤防上の道路は将来、川開き祭りの花火大会が元の場所で開催されるようになることを考えて、今よりも広めに作って欲しい。もしくは、花火大会が開催されることを前提として河川敷や道路を作りたい。
場所によっては高台まで距離があることから、津波避難施設の確保も必要とあるが、高齢者にとっては、堤防上や河川敷にいた場合、いっぺん堤防から降り、平地を進んで津波避難施設で上の階へ登るといふことをしなくてはならない為、かなりの負担になると思われる。
実現は難しいと思うが一つの案として、仙台駅前のベステリアンデッキのように、堤防内側に作った津波避難施設の上の階、あるいは屋上と堤防上の道路をつなぐことはできないか。

まちなか創生協議会
水との距離の近さというものがとても大事である。景観として美しい物が必要である。
堤防を生かした街づくりが出来れば良いと考える。花と緑に囲まれた堤防。堤防から、街並みへと統一性あるデザインが必要である。例えば、色や建築様式等。
川辺のロケーションを良いものにしていく考え方は良いと思う。一方で、川から少し街なかに入ってしまうと堤防が見えない形になってしまうのは、良くない。川辺のロケーションとの整合性が必要。
市民の方が川辺に触れて憩意の意味も込めた灯籠流しを行う観点からも堤防で分断されことなく、川と触れ合う事の出来る空間の整備が必要。
旧北上川全体の堤防、橋、道路等の整備計画を国、県、市で一つに重ねた図面で提示して頂いた上で議論を行った方がよい。そうして、全体をイメージしながら検討すべき。
新しく堤防が出来ると周辺、全員が入る様な組織が必要なのではないか。今ある組織の中だけ議論していると整備が虫食い状態になってしまう。



ルート

H23.2 計画見直し前
湊地区の歴史的なポイントは、山際に多くあって水辺沿いから距離がある。プロムナードに設置するサインなどを工夫して欲しい。
中瀬から見た湊側が汚いイメージ。プロムナードでは景観も検討すべき。
プロムナード整備と併せて内水対策は重要(門脇、湊地区)、日和大橋もプロムナード計画に入れるべき、橋からの景観はすばらしい。

全3回 懇談会意見
堤防を作ることによって、親水空間ができるのであれば、湊側にも作って欲しい。

H25.3 計画見直し時
震災前に不法係留されていた船やヨットの数を考えれば、川口町近辺にも係留施設を整備して欲しい。

まちなか創生協議会
湊地区が何も計画されていない。両側を整備して初めて、旧北上川の堤防を生かした街づくりになるのではないか。

拠点:D

H23.2 計画見直し前
内海橋をプロムナード計画に入れるべき。

全3回 懇談会意見
中瀬は親水性をもたせた空間として整備して欲しい。石巻の歴史、文化をシンボリックに体感し、市民がそこで共有したり、学べるものを集約して欲しい。
中瀬に全て集約するよりは、中瀬と湊を結びつけて考えて欲しい。
中瀬では石巻地域の産業、産物を全て買い物できるような施設があれば良い。
今後、高潮による影響が懸念される。中瀬の高上げをきちんとしてもらいたい。

H25.3 計画見直し時
中瀬の下流側の先端を以前のような岸壁にして欲しい。

ルート

H25.3 計画見直し時
(旧北上川左岸上流)現在、葦などが生えているが、これを伐採せず、残して欲しい。このルートに限らず、他の場所でも葦などの水生植物を植え、水質浄化や小魚などが住みやすい環境を整えて欲しい。
カヌー等に利用されているとあるが、川幅や水質の問題はあるかもしれないが、ウエイクボードやトライアスロン等の大会も出来るように整備して欲しい。